

2000年(平成12年)7月7日(金曜日)



名古屋市長議員

三輪 芳裕

「十七歳の犯罪」といわれるほど、各地で少年たちによる凶悪・粗悪な犯罪が起っています。こうした少年たちの行動は弱い者を際限なく攻撃したり、自分の気持ちのおもむくまま、他人の生命さえも奪ってしまうという悪質なものであり、少年犯罪が極めて深刻な状況にあると大変危惧(きん)しています。

名古屋市緑区で起きた中学生五千万円恐かつ事件は、まさにこうした少年たちの犯罪であり、この事件を通して本市の教育に対する保護者や市民の信頼は大きく揺ら

ぎました。二度とこうした問題を起さないために、どのような取り組みをしていくのか。このほど開かれた名古屋市議会定例会の一般質問で私は、教育委員会に再発防止策を目に見える形で分かりや



すく示すよう求めました。

今回の事件は、事件が発生した中学校だけでなく他の中学校の少年も加わって八カ月にもわたって一人の少年に恐喝・暴行を続けるという、かつてないほどの悪質さ

## 5000万円恐かつ事件で具体的な再発防止策を提言

を極めました。加害者として警察に逮捕・書類送検された少年が十人を超え、その中には少年院送致の処分を受けた少年もいます。また、事件に関連して緑警察署長など警察関係者五人が処分を受け、六月十三日には教育長や中学校の校長など八人も処分されました。

を図る②市内の中学校で子どもたちのカウンセリングを行っているスクールカウンセラーや「心の教室相談員」を増員する③幅広い年代や職業経験など、さまざまな立場の人たちを相談員として導入する――などを提言しました。

しかし、関係者の処分をしたというだけで決して終わらせてはなりません。事件を防ぐための根本的な方策は、何よりも子どもたちに生命の尊厳を教え、他人の心を思いやれる人間に育成していくことが大切であると思います。この観点から、①今年度より各学校で実施されている「総合的な学習の時間」を活用して指導内容の充実

宮澤明倫教育長は、再発防止に向けて現在、全小、中学校でいじめ・不登校に対する指導体制や教育相談体制、関係機関との連携体制などについて総点検活動を行っているとし、今月にはその結果を集約した上で、生徒指導や再発防止策につなげていく方針を示しました。また今後、私が訴えた「生命を尊重する心」などをはぐくむ心の教育に努力し、スクールカウンセラーの増員とともに、若い世代の人たちにも「心の教室相談員」として協力を要請していく考えを明らかにしました。